

令和3年第9回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案（議案第2号）を除く

令和3年第9回教育委員会会議

1 日 時 令和3年6月14日(月)13時30分～14時00分

2 場 所 STV北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教育長	檜田英樹
委員	阿部夕子
委員	佐藤淳
委員	石井知子
委員	道尻豊
委員	中野倫仁
教育次長	竹村真一
生涯学習部長	丹尾結子
学校施設担当部長	松原和幸
学校教育部長	相沢克明
教育推進課長	佐々木薫
学びの支援担当課長	山田浩富
児童生徒担当部長	長谷川正人
教職員担当部長	三戸部文彦
総務課長	井上達雄
庶務係長	松平健次
書記	村上彰隆

4 傍聴者 5名

5 議 題

議案第1号 札幌市立高等学校学則の一部を改正する規則案

議案第2号 札幌市特別支援教育振興審議会委員の委嘱及び任命について

【開 会】

○**檜田教育長** これより、令和3年第9回教育委員会会議を開会いたします。

私は、5月25日付けで教育長に就任しました、檜田英樹と申します。

今回から私が教育委員会会議を主宰することとなりましたので、よろしくお願ひいたします。

初回でございますので、会議に先立ちまして、簡単に御挨拶をさせていただきます。

私が最初にこの教育委員会会議に参加させていただいたときは、札幌市PTA協議会の会長を務めておられた丹羽委員長が会議を主宰されていたと記憶しております。

そののち、山中委員長が就任され、当時は教育委員会の在り方が色々話題になっておりましたけれども、丹羽、山中委員長ともに、委員の皆様が発言しやすい、活発に議論する教育委員会を目指して、会議を運営していただきました。

教育委員会制度が改正された後、長岡教育長、長谷川教育長も同様に、委員の皆様からの貴重な御意見を大切にしながら進めてきていただいたと思います。

私も、こうした伝統を引き継ぎ、このコロナ禍という困難な状況にあっても全ての子どもたちが「自分が大切にされていること」を感じ、安心して学校生活を送ることができるよう、全力を尽くしてまいりますので、皆様のお力添えをよろしくお願ひいたします。

なお、教育長職務代理者につきましては、引き続き、阿部夕子委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** 阿部委員、よろしくお願ひいたします。

それでは、会議を進めてまいります。

本日の会議録の署名は、佐藤淳委員と石井知子委員にお願いいたします。

本日の議案第2号は、附属機関の委員の任免に関する事項でございます。

教育委員会会議規則第14条第3号の規定により、公開しないこととしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、議案第2号は公開しないことといたします。

【議 事】

◎議案第1号 札幌市立高等学校学則の一部を改正する規則案

○檜田教育長 それでは議事に入ります。

議案第1号、札幌市立高等学校学則の一部を改正する規則案についてです。
事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 議案第1号「札幌市立高等学校学則の一部改正」について御説明させていただきます。

札幌市立高等学校の課程、学科、生徒定員、入学手続等につきましては、「札幌市立高等学校学則」において規定されております。

この度、令和4年度から市立札幌旭丘高等学校に新学科を設置することから、同規則における同校の学科及び生徒定員に係る規則を改正する必要があるため、「本改正案」を提出するものでございます。

始めに、新学科設置の経緯と概要について御説明いたします。

本市教育委員会では、平成29年3月に「札幌市立高校教育改革方針」を策定し、市立高校に関する各種の取組を実施しているところです。

この中の施策の一つとして、科学技術系人材の育成など、これからの社会で求められる資質や能力を伸ばす専門学科の新設を検討することとしております。

これに基づき、令和4年度から、本市における理系人材の育成に寄与すること等を目的として、旭丘高校に「理数及び情報に関するその他の専門学科」を新たに設置することとしたところであり、このことについては、令和2年9月に北海道が決定いたしました「公立高等学校配置計画」により公表されたところでございます。

新学科の概要につきましては、お配りしたパンフレットをご参照いただければと思います。

パンフレットをお開きいただき、左側上部に「開設の目的と理念」が記載されております。

そこにございますとおり、「Society5.0」とも呼ばれる時代において、理数分野を中心とした幅広い教養と経験を積み、情報の分析・活用能力を併せ持ち、札幌や世界の諸課題の解決に貢献する人材の育成を目的とした学科になっております。

また、パンフレット右側上部を御覧ください。

膨大なデータが溢れる時代において、数理的思考やデータ分析・活用能力を持ち、データから新しい価値の創造を見いだせる人材である「データサイエンティスト」の育成が急務であり、文部科学省をはじめとした政府関係各所においても、現在盛んに取り上げられているところであります。

新学科では、これからの時代に、文系理系を問わず必要な学問であると言われて
いる、この「データサイエンス」を、学習のエンジンとして取り入れることと
し、ページ右下にございますとおり、北海道大学の「数理・データサイエンス教
育研究センター」と連携することといたしました。

昨年度は、当時の同センター長であり、現北海道大学副学長でもある、長谷山
美紀（はせやま みき）北海道大学大学院教授を、今年度は同センターの阿部 真
育（あべ まいく）特任准教授を、それぞれ「データサイエンス教育アドバイザ
ー」に委嘱し、指導・助言をいただきながら新学科のカリキュラムを構築するな
どしており、同センターの最先端の知見を活用しながら、新学科の学びを充実さ
せていくこととしております。

また、新学科の名称につきましては、これまで御説明差し上げました新学科の
特色を踏まえつつ、旭丘高校とも協議を重ねた結果、「数理データサイエンス科」
としたいと考えております。

それでは、改正案の内容について、御説明いたします。

「新旧対照表」とインデックスのついたページを御覧ください。

市立高等学校の学科及び生徒定員は札幌市立高等学校学則中の別表で規定さ
れており、左側が現行の表、右側が改正後の表になります。

まず、現行の表を御覧いただくと、旭丘高校の課程は「単位制による全日制」、
学科は「普通科」、生徒定員については、総計のみ 960 名の記載となっております。

これは、単位制の課程は学年による区分を設けないことから、単位制導入の際
に学年ごとの生徒定員の記載を削除したことによります。

これを右側の表のように、「普通科」の生徒定員を「720 人」に改正するとと
もに、「普通科」の下に「数理データサイエンス科」を追加し、同科の「生徒定
員」を「240 人」とするよう改正いたします。

次に、「議案」とインデックスのついたページを御覧ください。

まず、本改正の施行期日についてですが、附則 1 にありますとおり、「数理デ
ータサイエンス科」に生徒の受入れを開始する令和 4 年 4 月 1 日から施行する
こととしております。

最後に、附則 2 についてでございますが、本改正による「数理データサイエン
ス科」の生徒定員は、1 年生から 3 年生まで全ての生徒が在籍することとなる令
和 6 年 4 月 1 日の状況に合わせたものとなっております。

数理データサイエンス科の生徒は、令和 4 年度から受入れを開始するため、年
度ごとに順次 80 人ずつ増えていくことから、令和 4 年 4 月 1 日から令和 6 年 3
月 31 日までの間における生徒定員の状況について、ページの中ほどにござい
ます附則 2 におきまして、年度ごとに経過措置を設けることで、毎年規則改正を

行うことなく、対応することとしております。

説明は以上でございます。

御審議の程、よろしく願いいたします。

○**檜田教育長** ありがとうございます。

事務局の説明に関しまして、御質問、御意見があれば、お願いいたします。

○**佐藤委員** 新学科ができるということで、大いに期待しております。

北海道大学と連携するということですが、実際に教壇に立つ先生方に、この新学科の成否がかかっていると思います。

来年4月からの開設に向け、教員の配置の部分でも御配慮をお願いしたいところなのですが、現時点で何かお考えのことがあれば教えていただけないでしょうか。

○**学校教育部長** 現在、北海道大学の「数理・データサイエンス教育研究センター」の阿部先生から御指導をいただきながら、具体的なカリキュラムを検討しているところです。

また、研究センターにいらっしゃる博士研究員の方にも学校に来ていただいているほか、今後は研究センターから高校に教員を派遣してもらい、配置できるような仕組みを考えています。

教育内容については現場の教員が色々なノウハウを持っていますので、最新の学問的な知見など、研究センターと十分に連携をして、体制を構築してまいりたいと考えております。

○**佐藤委員** 研究センターからの派遣は月何回程度とか、具体的なところはこれから詰めていくのですか。

○**学校教育部長** そうですね。

できれば、教員として教壇に立っていただけるような形の実現に向けて進めているところです。

○**佐藤委員** ありがとうございます。

○**阿部委員** 規則の改正内容については、御提案のとおりでよろしいかと思えます。

参考資料として付けていただいたパンフレットについて、学生さんや保護者

にとってわかりやすく仕上がっているなという印象を持ったのですけれども、こちらはこういったところに配架しているのかを含め、広報の取組状況について少し教えてください。

○**学校教育部長** パンフレットは昨年度作成したものでして、旭丘高校の方で関係各所に広く配布し、周知を図ったという経緯があります。

今年度はいよいよ開設に向けて生徒募集を開始するところですので、更に内容を充実させたパンフレットを作成し、各中学校に配布したいと考えております。

○**阿部委員** では、本格的な広報はこれからということですか。

○**学校教育部長** 昨年9月に学校配置計画が公表されて以降、「旭丘高校に新しい学科ができます」ということについて広報をしてまいりました。

今回、新たに学科名が決まるということになりますので、ここからさらに広報をかけていこうということでございます。

○**阿部委員** わかりました。

○**石井委員** 私も、新設される学科には期待をしております。

パンフレットに関して、裏表紙にアクティブラーニンググループ新設について記載されておりますが、これは新学科開設のために設けたものなのでしょうか。

教室の特徴についても、もし何かあれば教えていただきたいです。

○**学校教育部長** アクティブラーニンググループは新学科開設に伴って新たに設けた教室となります。

容易に動かせる机や椅子を設置するとともに、ホワイトボードを複数配置することで、従来型の講義形式の授業から少人数のグループワークまで、柔軟にレイアウトを変更できることで多様な学習スタイルを展開しやすくなるように工夫しております。

○**石井委員** ありがとうございます。

○**道尻委員** データサイエンスを学習のエンジンとする、ということで、色々な分野において活用していくということなのだと思います。

今まさにカリキュラムを検討しておられるとのことですが、全体像について

何かイメージしやすい具体例などあれば、教えてください。

○**学校教育部長** データサイエンスの活用のためには、高度な理数の知識がベースとして必要になってきますので、入学後まずは物理や数学といった専門分野を学んでいくことになります。

そうした専門分野の知識とデータサイエンスの知識を組み合わせ活用することを、生徒それぞれが研究テーマを通して2学年、3学年で学んでいき、論理的思考力や課題解決能力を育成し、大学等におけるさらに高度な学びに繋げていくという、そういう構造をイメージしています。

○**道尻委員** そうなると、クラスの皆が同じことを学ぶだけではなくて、個人の研究テーマに分かれて学ぶということもあり得るのですね。

○**学校教育部長** はい。

「データサイエンス」という教科を設定して、そこで研究していくことになります。

○**中野委員** 大学で学ぶような要素を高校でもあらかじめ取り入れるというイメージなのでしょうか。

○**学校教育部長** 大学でのより高度な研究等にも対応できるよう、高校の段階から情報活用能力を身に付けていこうと、そういうことを目的としています。

○**中野委員** 早い段階から大学と連携し、専門的なことを学んでいくということですね。

○**学校教育部長** 研究センターでも、必ずしも情報関係の専門家だけではなくて、様々な学問の分野の方がデータサイエンスの活用について学び、それを各分野の研究に広げているということです。

大学に入ってからではなく、高校の段階からこのような考え方に習熟することで、各分野においてデータサイエンスを活用して新たな価値を生み出すことができる人材の育成に寄与できるものと考えております。

○**佐藤委員** 今後は研究センターとの連携が密になっていくと思いますが、人材の派遣などについて、連携協定のような取り決めを結んでいるのでしょうか。

○**学校教育部長** 現時点ではありませんが、今後も取組をつなげていくという意味では、そういったことも必要だと認識しています。

○**佐藤委員** しっかりした枠組みを作ることで安定的な取組につながると思いますので、是非御検討いただきたいと思います。

○**檜田教育長** 北大の研究センターは世界的にもレベルの高い研究をされているようですが、同センターのミッションには「高校生の育成」が位置付けられているということで、そういう意味で高校と大学互いのニーズがマッチしているのだらうと思います。

北大では、学部に関係なく全ての学生がこのデータサイエンスについて学ぶ仕組みがあるということで、ビッグデータをどのように活用し生かしていくか、そういうことを早い段階から習慣づけていくことに意味があるのだらうと思いますし、私自身も大変期待をしているところであります。

他にはいかがでしょうか。特によろしいですか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、議案第1号については、提案どおり決定させていただきます。

議案第2号につきましては、公開しないことといたします。

傍聴の方は大変恐縮ですが、退席をお願いいたします。

[傍聴者退席]

以下 非公開